

感染症情報 2月15日～21日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1208例	（堺市 41例）
②溶連菌感染症	481例	（堺市 41例）
③おたふくかぜ	158例	（堺市 5例）
④みずぼうそう	85例	（堺市 6例）
⑤伝染性紅斑	79例	（堺市 2例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 12157例（堺市1187例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から微増し、順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは定点当たり39.6と今年初めて4%減少したが、堺市では42.4と依然警報レベルを超えて増加している。堺市の定点調査ではB型が61%を占めるが、小中学生ではB型が66%に対し、3歳未満と成人では逆にA型が6割を占める。2月22日現在、堺市では10校12学年で学年閉鎖、38校58クラスが学級閉鎖となっている。予防に心がけよう！